it.	-11-5	est.							
							パルボウィル ス	47: 1756-1764	米国の血液センター7施設において2000-2003年の期間に採取した5020名の供血者由来の保存血漿検体を高感度PCRスクリーニング法を用いてパルボウイルスB19 DNAについて検査した。B19 DNA陽性率は0.88%であった。DNA陽性検体の全てがIgG陽性で、23%がIgM陽性であった。IgM血清陽性率はDNA値と相関した。
		 	 ,	 		 			
								究会 Poster-20	日本の人口動態統計では、CJDによる死亡は過去20年以上に渡り増加傾向を示し、2005年は人口100万対1.23人であった。CJDサーベイランス委員会による調査では過去8年間に918例がプリオン病と判定された。病型別では、孤発性CJD 716例、遺伝性プリオン病 128例、感染性(獲得性)CJD 72例(変異型CJD 1例、硬膜移植後CJD 71例)、および分類不能 2例であった。
							異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	64: 1780-1784	運動失調や記憶障害などを呈し、発症後14ヶ月で死亡した患者(39歳女性)の剖検を行ったところ、白質の広汎な変性と皮質および白質におけるPrP沈着を示す非定型孤発性CJDであった。小脳組織由来のPrPScを分子分析した結果、VCJDでみられるPrPSc 4型と似た新規のPrPScであることが示された。典型的VCJDとはEDTA存在下でのプロテアーゼ開裂部位が異なった。この患者のPRNPコドン129はホモバリンであった。
				 	To proper to the second				73歳の受血者で生前に特定されたvCJDの非典型的症状の報告である。患者は1997年12月に輸血を受けたが、供血後にvCJDを発症した供血者由来の赤血球製剤であった。輸血から6年後、受血者は疲労及び集中困難を訴えたが、神経学的検査及び脳MRIは正常であった。この6ヵ月後に神経学的症状が発現し、進行したが、血清学的検査は正常であった。MRIでは視床背側核全体の顕著な信号変化が示された。vCJDの長期潜伏期間と無症候状態は、重大な公衆衛生問題を提示する。
									BSE感染ウシ由来の脳乳剤を用いてPrPresのin vitro感 染系の確立を試みた。感染させたヒト由来グリオーマ細 胞株から抗プリオン抗体に反応する約30KのPK耐性のパ ンドが検出された。このパンドは非感染細胞には存在しな かった。また、9ヶ月継代した感染細胞の培養上清に伝達 性があることが明らかとなった。さらに20nmのウイルス除 去膜によって培養上清の伝達性が減少することが認めら れた。

		- 1.	10 <u>14 -</u>						
							異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病		英国National CJD Surveillance Unitに報告された2008年1月7日現在のCJD数は、vCJD診断確定死亡症例(確定例)114名、vCJD可能性死亡症例(神経病理学的確定診断がない)48名、vCJD可能性死亡症例(神経病理学的確定診断待ち)1名で、vCJD診断確定または可能性例の死亡総数163名であった。生存中のvCJD可能性症例数は3名であった。英国におけるvCJD流行は減少しつつあるという見解に一致する。
								2007; 51: 1221– 1231	感染動物モデルにおいても、血中のPrPresは白血球を除きめったに検出されない。新規の酸性SDS沈殿法と高感度化学発光法とを組み合わせることにより、プロテイナーゼK耐性3F4反応性タンパクが、スクレイピー感染ハムスターの血漿中からは検出されるが、疑似感染ハムスターでは検出されないことが示された。血漿中においてPrPresは他の血漿タンパクと糖鎖を通じて凝集しており、スクレイピー感染ハムスター血漿において検出可能となったことが示唆された。
							HIV	2007; 12(5): E070524.5 2007年5 月24日	AIDS最新号において、LikataviciusらはEuroHIV surveillance network によるヨーロッパの供血血液のHIV 陽性率についての14年間のモニタリングデータを提示した。この分析は、1990-2004年のWHO欧州地域のデータが網羅されている。2000-2004年の10万供血中の平均 HIV陽性率は西欧1.7、中欧3.4、東欧36.7であった。1990年以降の変化では、西欧で低下、中欧で横ばい、東欧では急激な上昇が認められた。
								of Hematology 2007 年12月8-11日	1999年1月~2006年12月に長崎で献血を行った初回献血 者の年齢別、出生年別および期間別HTLV-1血清陽性率 の傾向分析を行った。血清陽性率は年齢が高くなるにつ れ有意に増加した。また1987~1990年に生まれた献血者 では1985~1986年に生まれた献血者と比較して有意に 低かった。ウイルスキャリアの母親の授乳を避ける事を指 導した県の対応が陽性率の低下に貢献していることが示 された。
						 ,	リンハ 性脈絡髄 膜炎	358: 991-998	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シークエンシングで解析することにより、リン、性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。

ID.	<b>学</b> 国日	88	報告者名	- Pa	1877 E						
											保健当局は、ウガンダ西部において16名が死亡し、他に50人が罹患したエボラウイルスは、新規の株であると2007年11月30日に発表した。最初の症例はコンゴ民主共和国と国境を接するBundibugyo地区において11月10日に報告された。この株では出血はあまり見られず、患者は高熱の後、死亡する。
									デング熱	ProMED- mail20071001.3237	2007年9月30日、中国保健当局はFujian省Putian市で39 例のデング熱症例が確定されたと発表した。ベトナムでは2007年9月24日時点で約68000人が感染し、内60名が死亡した。パキスタンでは2007年9月26日、Karachiで新たに22例のデング熱症例が報告された。ラテンアメリカとカリブ海諸国ではデング熱の最悪のアウトブレイクが起こっており、2007年になってから何十万もの人々が関節痛を訴え、約200人が死亡した。
										2007年10月14日	台湾南部でデング熱が流行している。台南市当局による と2007年10月13日までに市内で511人の感染者が確認された。隣接する高雄市でも2つの区で集団感染が発生しており、感染の広がりは過去最大規模である。行政と軍が協力して大規模な蚊の撲滅作戦を展開する方針である。
								·		2007; 135: 974–977	2004年11月から2005年2月にかけて、日本の西部に位置する広島県の野生イノシシから血清25検体を採取した。日本脳炎ウイルス(JEV)に対する抗体検査を、IgMキャプチャー及びIgG酵素免疫測定法(ELISA)、並びにプラーク減少中和試験により行った。17検体(68%)がJEV中和抗体陽性だった。中和抗体陽性検体は全てIgG-ELISA陽性だった。1検体はIgMも陽性だった。約70%の野生イノシシが抗JEV抗体陽性であることが示され、この地域のJEV感染サイクルに関与している可能性が提示された。
,					Ż				ウイルス感染	mail20080218.0645	2008年1月21日、Braziliaで32歳の男性が黄熱のため死亡した。これは、ブラジルにおける15人目の黄熱死亡患者である。Mato Grossoでも1名の感染と死亡が確認された。パラグアイ保健当局は首都Asuncionの病院で集中治療を受けていた39歳の女性が2008年2月16日に死亡したと発表した。同国ではこれまでに、少なくとも6名が黄熱によって死亡した。多くの市民がワクチン投与を求めて病院に殺到している。

<b>1</b>	1.2.12	May a	10 mm (12)	12.					
							B型肝炎	業学会総会 2007 年10月 3-5日	平成19年3月、輸血によるHBV感染が疑われるとの報告が干葉県赤十字血液センターにあった。因果関係の確認のために実施した当該輸血用血液製剤に係る保管検体個別NATは陰性であり、献血者追跡調査を行った。1名の献血者が平成19年1月にB型肝炎を発症したとの情報が得られ、調べたところ、献血者のHBV-DNAは患者のそれと塩基配列が一致した。20プールNAT陰性、HBV保管検体個別NAT陰性であったが、献血者追跡調査により輸血用血液製剤からのHBV感染が示唆された症例であった。
								学会西部会 2007 年12月7-8日、肝臓 2007; 48(Suppl 3): A522	輸血によりHBs抗体エスケーブ変異株に感染し、肝炎を 発症した40歳代女性の症例報告である。献血者、受血者 の塩基配列の解析を行って感染が証明された。核酸増幅 検査を含む献血者のスクリーニングを行っているにもか かわらず、本邦では年間10-20例のHBV感染が報告され ている。その原因の一つがHBs抗体エスケープミュータン トであるが、本症例のように献血者、受血者ともに塩基配 列の解析を行い感染が証明された例はきわめて稀であ る。
							肝炎、B型肝炎	業学会総会 2007 年10月 3-5日 シン ポジウム4-2	日本赤十字社血液事業本部が関わる安全対策の取り組みと際染症リスクについて報告する。平成16年から18年までの3年間に全国の医療機関から日赤血液センターに報告された輸血関連感染症(疑い症例を含む)の報告数は749例であった。日赤の安全対策の実施によりHBV、HCV及びHIVの感染リスクは減少し、安全性は高くなった。しかし、HCV及びHIVも含め遡及調査の実施により確認された感染症例も少なくない。感染拡大を防止するための安全対策を引き続き講じていく必要がある。
							B型肝炎	業学会総会 2007 年10月 3-5日 一般 演題51	2004年8月よりNATスクリーニングのプールサイズを50から20に縮小した。大阪府赤十字血液センターで検出されたHBV-NAT陽性事例81人を基にプールサイズ縮小の効果等について解析を行った。プールサイズ縮小後に100コピー未満/mLのHBV-NAT陽性者の比率が高くなっていることから、縮小による効果があると思われた。追跡調査、遡及調査及び医師の面談等による総合的な解析によりHBV低濃度キャリアが疑われる献血者がプールサイズ縮小後に多く検出されていることが推察された。
								2007; 93(Suppl.2); 31	日本赤十字社(JRC)が全国的ヘモビジランス体制を導入してから14年が経過した。報告された輸血副作用症例数は年間約2000例で、過去3年間はほぼ一定である。非溶血性輸血副作用は報告症例の約80%を占め、輸血関連急性肺障害などが含まれる。輸血感染症の報告数は年々減少している。JRCのヘモビジランスは病院の自発報告に基づいており、病院と血液センターとの協力が不可欠である。

15				15.			l alas							
												C型肝炎	for the Study of Liver Diseases	慢性HCV感染患者1930名(感染群)とHCV陰性患者1941 名(対照群)とを比較し、リスク因子を検討した。静注薬物 使用、1992年以前の輸血および2つ以上の入れ墨は感染 群の方が対照群より有意に高かった。入れ墨はHCV感染 リスク要因のない患者群においてもHCV感染と強く相関し ていた。
		-										C型肝炎	80: 261-267	2003年4~10月にイタリアの血液透析施設で患者4名に HCV抗体セロコンバージョンが認められた。この4名と以前からHCV抗体陽性であった10名のHCV RNAおよび HCV遺伝子型を検査し、系統遺伝学的解析をした結果、 新規感染患者4名のHCVは遺伝子型2cで、2c型慢性感染 患者1名から分離されたウイルスと近縁であった。感染制 御手段の不備と装置による伝播が疑われた。
												E型肝炎	152: 1623-1635	日本においてHEVの不顕性感染が増加しているかを調べるため、1991-2006年の献血者のうちHEV感染の可能性のあるALT 61IU/L以上の4019名から得られた血清検体中の抗HEV IgG、抗HEV IgM/IgAおよびHEV RNAを調べたところ、2004-2006年の献血者のHEV陽性率は1998年のそれと同等であった。またALT 201IU/L以上の献血者についても1991-1995年、1996-1999年および2004-2006年でHEV陽性率の差は見られなかった。
											deline in the second management of the second	E型肝炎	80: 283-288	英国サウスハンプシャーの単一施設において2005年6月から13ヶ月間にE型肝炎13例が発生した。これらの患者はルーチンのE型肝炎血清検査を導入開始後に特定された。同一期間中A型肝炎は2例、B型肝炎は4例であったことから、原因不明の急性肝疾患を発症し、関連する渡航歴のない患者全員にルーチンのE型肝炎検査を実施することが重要と考えられる。
84	2008/04/22	80084	日本赤十 字社	人血小板濃厚液	人血小板濃 厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	有	ブルセラ症	J Travel Med 2007; 14: 343-345	80083に同じ
	1											細菌感染	ABC Newsletter 2007年9月21日	80083に同じ

165	* i :	**************************************					1			
				A Equi Al Settina				感染	Transfusion 2007;	80083に同じ
									47: 2338-2347	
						 		 感染	'	  80083に同じ
	i								ABC Newsletter 2008年1月11日	
					 	 		    ペスト	Emerg Infect Dis	80083に同じ
									2007; 13: 1459- 1462	
					•	 		 アメリカ・トリパ ノソーマ症	ABC Newsletter 2007年9月14日	  80083に同じ
								フラーマ症	2007年9月14日	
						 		 アメリカ・トリパ ノソーマ症	第48回 日本熱帯 医学会大会 2007 年10月12-13日	80083に同じ
									年10月12-13日 12C-02	
								<i>;</i>	5	
								アメリカ・トリパ ノソーマ症	Clin Infect Dis 2008; 46: e44-47	80083に同じ
					·					
								ワイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(45): 1181-1184	80083 に同じ
				·		 		 ウイルス感染	ProMED-	80083に同じ
								- I TO NEW AND	ProMED- mail20070930.3228	~

	15		
		チクングニヤウ Pediatr Infect Dis 、 イルス感染 2007; 26: 811-815	J 80083に同じ
		·	
		チクングニヤウ Eurosurveillance イルス感染 2007: 12(9): E070906.1	80083に同じ
		チクングニヤウ Lancet 2007; 370: イルス感染 1840-1846	80083に同じ
		ウイルス感染 Transfusion 2007; 47: 1972-1983	80083に同じ
 	 	ハンタウイルス J Clin Microbiol	80083に同じ
•		2007; 45: 3008- 3014	
		インフルエンザ Emerg Infect Dis 2007: 13: 1865- 1870	80083に同じ
		鳥インフルエン WHO/CSR 2007年 ザ 12月9日	80083に同じ
		パルボウィル Transfusion 2007: ス 47: 1756-1764	80083に同じ

gen Tali					F1777						
25000		V.A.:				luk Wilder ke			クロイツフェル ト・ヤコブ病	2007年プリオン研 究会 Poster-20	80083に同じ
			 						異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	80083に同じ
										·	
								[.	フェルト・ヤコ	Prion 2007; P04.51 2007年9月26-28日 Edinburgh	80083に同じ
			 						関利カロノツ	2007年プリオン研	000031-명(*
									英宝ソロイフ フェルト・ヤコ ブ病	究会 Poster-38	80063[CIN]C
							 		異型クロイツ	ProMED-	80083に同じ
									フェルト・ヤコ ブ病	mail20080107.0087	
			 			: 	 		異型クロイツ	Microbiol Immunol	80083(二同じ
:								1 i	フェルト・ヤコ ブ病	2007; 51: 1221– 1231	
			 				 		HIV	Eurosurveillance	80083に同じ
						-				Eurosurveillance 2007; 12(5): E070524.5 2007年5 月24日	
			 				 		HTLV	American Society	80083に同じ
				,					· · · · C v	of Hematology 2007 年12月8-11日	00001CI-IO

	,						リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358: 991-998	80083に同じ
			 				エボラ出血	ProMED- mail20071130.3869	80083に同じ
 			 				 デング熱	ProMED-	80083に同じ
			·			- The state of the		mail20071001.3237	
							デング熱	  YAHOO!ニュース  2007年10月14日	80083に同じ
		 	 				 日本脳炎	Epidemiol Infect 2007; 135: 974-977	80083に同じ
		 					 ウイルス感染	ProMED-	80083に同じ
				,				mail20080218.0645	
		·	 		`		B型肝炎	第31回日本血液事 業学会総会 2007 年10月 3-5日	80083に同じ
		 					B型肝炎	第37回 日本肝臓 学会西部会 2007 年12月7-8日、肝臓	80083に同じ
								年12月7-6日、肝臓 2007; 48(Suppl 3): A522	

)  -  (c)		¶•7				14.82				Agrico Agrico				
												HIV感染、C型 肝炎、B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007 年10月 3-5日 シンポジウム4-2	80083に同じ
	-											B型肝炎	第31回日本血液事 業学会総会 2007 年10月 3-5日 一般 演題51	80083に同じ
												l	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.2): 31	80083に同じ
													American Society for the Study of Liver Diseases 2007年11月2-6日	80083に同じ
										-			J Med Virol 2008; 80: 261–267	80083に同じ
		>											Arch Virol 2007; 152: 1623-1635	80083に同じ
												E型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 283-288	80083に同じ
85	2008/04/22	80085	日本赤十字社	洗浄人赤血球浮遊液	洗浄人赤血 球浮遊液	人血液	日本	有効成分	有		無	ブルセラ症	J Travel Med 2007; 14: 343-345	80083に同じ

D)	4	S. Contraction of the Contractio							
							細菌感染	ABC Newsletter 2007年9月21日	80083に同じ
				:			感染	Transfusion 2007; 47: 2338–2347	80083に同じ
	 				r	 			
							感染	ABC Newsletter 2008年1月11日	80083に同じ
			 			 	ペスト		000001= Tit
						-	~~r	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1459- 1462	80083に同じ
	 	 	 				7704.507	ABC Newsletter	80083に同じ
							ノソーマ症	2007年9月14日	00005[CIP](
		 <del></del>	 			 	アメリカ・トリパ	第48回 日本熱帯	80083년 등년*
							ノソーマ症	医学会大会 2007 年10月12-13日 12C-02	
		 	 			 	アメリカ・トリパ	Clin Infect Dis	80083に同じ
							ノソーマ症	2008; 46: e44-47	
		 				 	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007:	  80083に同じ
		×						CDC/MMWR 2007; 56(45): 1181-1184	

	enjen.	Lange						
						ウイルス感染	ProMED- mail20070930.3228	80083に同じ
						チクングニヤウ  イルス感染 	Pediatr Infect Dis J 2007; 26: 811-815	80083に同じ
						チクングニヤウ イルス感染	Eurosurveillance 2007; 12(9): E070906.1	80083に同じ
						チクングニヤウ イルス感染	Lancet 2007; 370: 1840-1846	80083に同じ
						ウイルス感染	Transfusion 2007; 47: 1972-1983	80083に同じ
			 				J Clin Microbiol 2007; 45: 3008– 3014	80083に同じ
							Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865- 1870	80083に同じ ・
						鳥インフルエン ザ	WHO/CSR 2007年 12月9日	80083に同じ

iQ.	<b>安里</b> 計	<b>进</b> 与					パルボウィル	Transfusion 2007;	80083年同学
							Z	47: 1756–1764	
							クロイツフェル ト・ヤコブ病	2007年プリオン研 究会 Poster-20	80083に同じ
				 			異型クロイツ	Arch Neurol 2007; 64: 1780-1784	80083に同じ
						-	ブ病	04: 1780-1764	
						 ļ	フェルト・ヤコ	Prion 2007; P04.51 2007年9月26-28日 Edinburgh	80083に同じ
							異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	2007年プリオン研 究会 Poster-38	80083に同じ
							異型クロイツ フェルト・ヤコ	ProMED- mail20080107.0087	80083に同じ
							ブ病		
							フェルト・ヤコ	Microbiol Immunol - 2007; 51: 1221- 1231	80083に同じ
			 			 		2007: 12(5):	80083に同じ
								E070524.5 2007年5 月24日	